



# HOKKAIDO UNIVERSITY

|                  |   |
|------------------|---|
| Title            | 日程・場所・参加者   |
| Citation         | 新ひぐま通信 別冊 : 第7回国際クマ会議報告書, 2-3   |
| Issue Date       | 1986-08-31  |
| Doc URL          | <a href="https://hdl.handle.net/2115/91568">https://hdl.handle.net/2115/91568</a> |
| Type             | other   |
| File Information | nittei.pdf  |



## § 1 日程・場所・参加者

### 1. 国際クマ会議

○開催地：ヴァージニア州、ウィリアムズバーグ、カスケード・ミーティングセンター

○日程

2月21日 受け付け

22日・開会

・SESSION I (個体群動態)

・SESSION II (冬眠、仔の生存および繁殖)

23日・野外見学

場所：グレート・ディスマル・スワンプ、ヴァージニア州

24日・SESSION III (食性と生息地利用-1部)

・SESSION IV ( " " -2部)

25日・SESSION V (移動、分布、行動圏、狩猟)

・SESSION VI (クマとヒト)

26日・SESSION VII (生理と成長)

・閉会

○クマ研からの発表演題

青井：Population characteristics of brown bear in northern Hokkaido, Japan.

北海道北部におけるエゾヒグマの個体群動態

大館, 青井：Seasonal change in food habits of brown bear in Hokkaido.

エゾヒグマの食性における季節的变化

坪田：Change in serum progesterone levels and growth of fetuses in Hokkaido brown bears.

エゾヒグマにおける血清プロゲステロン値の変化と胎仔の発育

間野：Population characteristics of brown bears in Oshima peninsula, Hokkaido.

渡島半島におけるエゾヒグマの個体群動態

### 2. 会議後の参加者日程

○青井 俊樹 (北大天塩演習林助手, 北大クマ研OB)

2/27: ワシントンDC→3/1: ニューヨーク→3/4: ミズーラ (モンタナ大学, C. Jonkel氏訪問) →3/6: シアトル→3/7: 東京.

○坪田 敏男（北大獣医学部繁殖学講座，D2）

2/26：ワシントンDC→3/1：フロリダ→3/7：バンフ国立公園→3/12：カルガリー（カルガリー大学，S. Herrero氏訪問）→3/13：シアトル→3/15：東京.

○間野 勉（北大農学部応用動物学教室，M2）

2/27：ワシントンDC→3/1：ミネアポリス→3/2：グランド・ラピッズ（ミネソタ，Fish & Game，D. Garshelis氏訪問）→3/7：ボーズマン（U. S. National Park Service，D. Mattson氏訪問）→3/8：イエローストーン国立公園→3/10：ボーズマン→3/11：シアトル→3/13：東京.

○大館 智志（北大農学部応用動物学教室4年）

2/26：ワシントンDC→2/28：ニューヨーク→3/3：ミズーラ（モンタナ大学，C. Jonkel氏訪問）→3/9：デンバー→3/13：サンフランシスコ→3/15：シアトル→3/18：東京.

○太田 学（北大理学部地質学鉱物学科3年）

2/26：ワシントンDC→2/28：ニューヨーク→3/3：ミズーラ（モンタナ大学，C. Jonkel氏訪問）→3/6：シアトル→3/7：東京.

○城戸 孝昌（酪農学園大学獣医学科2年）

2/26：ワシントンDC→2/28：ニューヨーク→3/3：モントリオール（カナダ）→3/6：バンクーバー→3/11：シアトル→3/13：東京.

この6人の他に、のぼりべつクマ牧場学芸員の前田菜穂子氏と、本州から野生動物保護管理事務所の羽澄俊裕氏が会議に参加された。